科目ナンバリング	U-LAS02 20017 LJ37						
授業科目名 <英訳>	ギリシア語Ｂ Greek B			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 西井　奨		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・後期	曜時限	水3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

ここで学ぶギリシア語は、古代地中海世界で連綿と使用され続け、西洋の古典として哲学・史学・文学の分野において極めて重要な作品群を生み出した古代のギリシア語である。

ギリシア文学史の最盛期たる古典期にあたるのが紀元前5世紀・紀元前4世紀であり、この時期のアテナイを中心としたアッティカ地方で使用されていたギリシア語が、現代に生きる私たちが古代のギリシア語を学ぶ上で第一に規範とするべきものとなる。これをしっかりと身に付けることで、古代地中海世界におけるその他の時期・地域のギリシア語も読むことができるようになるのである。

古代のギリシア語で書かれたテクストは、代表的なものだけでも、ホメロス、ヘシオドス、ピンダロス、アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデス、アリストパネス、ヘロドトス、トゥキュディデス、プラトン、クセノポン、アリストテレス、プルタルコス、ルキアノス、プロティノス、新約聖書、七十人訳聖書など多岐に渡る。ギリシア語を学ぶにあたっては、こういった作家や作品のギリシア語表現を文法的に正確に理解できることが重要となる。

このギリシア語A・ギリシア語Bでは、1年で一通りギリシア語の文法を学び終えて、辞書と文法書を頼りにギリシア語文献を独力で読めるようになることを目指す。

[到達目標]

後期開講のギリシア語Bの到達目標は、動詞の接続法と希求法の変化と用法ついて理解し、分詞を用いた表現や目的文や条件文や間接話法などの複文に慣れ、またμι動詞についても改めて学ぶことで、古典古代のギリシア語作家たちの文章を辞書と文法書を頼りにして読めるようになることである。

[授業計画と内容]

教科書『ギリシア語入門』を毎回2～3課ずつ進める。
後期では教科書を最後まで終える。

1 接続法・目的文・恐怖/危惧文（第34課・第35課）
2 母音交替・条件文・約音名詞・約音形容詞（第36課・第37課）
3 接続法・条件文・不定法（第38課～第40課）
4 第三変化名詞・関係代名詞・希求法（第41課～第43課）
5 希求法・第三変化形容詞・条件文（第44課～第46課）
6 第三変化名詞・分詞（第47課～第49課）
7 第三変化名詞・分詞の用法（第50課・第51課）
8 比較級・可能性の希求法・数詞（第52課～第54課）
9 条件文・副詞（第55課・第56課）
10 命令法・分詞を共に用いる動詞（第57課～第59課）
11 間接話法（第60課・第61課）

ギリシア語Ｂ(2)へ続く↓↓↓

ギリシア語Ｂ(2)

12 動詞的形容詞・間接話法・否定詞（第62課～第64課）
13 μι動詞（第65課～第67課）
14 μι動詞第68課～第70課）
≪定期試験≫
15 フィードバック（定期試験の解答解説・成績の個別告知）

毎回、各課の練習問題のギリシア語和訳をしてくること。

ギリシア語の発音は、講師の発音をしっかりと聞き取りつつ、各自で何度か練習しておくこと。ギリシア語も語学なので声に出して読めるようにしなければならない。

教科書『ギリシア語入門』は、十分な情報量を備えるが、レイアウト面で見づらい点がある。それを補うものとして、授業では解説の為の資料と、教科書とはまた別の観点からの動詞の変化表を配布する。

[履修要件]

前期開講のギリシア語Aから引き続き受講するのが望ましい（必ずギリシア語Aを受講していなければならないということではない）。
後期のギリシア語Bから初めて参加する場合は、ギリシア語Aの内容（第33課まで）を独習しておくこと。

[成績評価の方法・観点]

毎回提出してもらう小課題と定期試験の合計点で評価する。
小課題の点数は定期試験での失点を補うものとして機能する。

[教科書]

田中美知太郎・松平千秋 『ギリシア語入門 新装版』（岩波書店、2012年）ISBN:978-4000225892（1962年初版の『ギリシア語入門 改訂版』と内容・レイアウトは同一なので、そちらを用いてもよい。）

[参考書等]

（参考書）
マルティン・チエシュコ（著）・平山晃司（訳） 『古典ギリシア語文典』（白水社、2016年）ISBN:978-4560086964
堀川宏 『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』（ベレ出版、2021年）ISBN:978-4-86064-643-1
ギリシア語の辞書については、古川晴風『ギリシャ語辞典』大学書林（http://www.daigakusyorin.co.jp/book/b11837.html）の利用を強く薦めたい。日本語ネイティブ話者がギリシア語を学習するに際しては、この辞書を利用できるなら利用したほうが圧倒的に理解の助けとなる。しかしこの辞書は非常に高価なので購入するのはためらわれるだろう。さしあたって、大学図書館や所属研究室に置かれているものをその場で使うことになると思われる（研究室に未所属でも、その研究室に置かれている辞書を使えることもある）。しかし、もしギリシア語学習とギリシア語文献の読解を人生の伴とする可能性を考えるなら、ぜひ買って手許に置いて使ってもらいたい辞書である。
また下記のPerseus Digital Library上にある無料で参照できるギリシア語-英語辞書も活用してもらいたい。

（関連ＵＲＬ）

https://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph(Perseus Digital LibraryのGreek Word Study Tool。変化形から、その見出し語の形と文法的情報が分かり、さらにギリシア語-英語辞書の項目説明も参照する

ギリシア語Ｂ(3)へ続く↓↓↓

ことができる。)

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生は毎回、習った課の練習問題のギリシア語文を和訳をしてくること。
この際、ギリシア語文の個々の単語の文法的情報、すなわち名詞・形容詞ならば性・数・格、動詞ならば法・時称・態・人称/数を、必ず分かるようにしておくこと。
この文法的情報のメモがし易いように、練習問題の各文の行間を大幅にとったワークノート形式の資料を別途配布する（自分でノートにギリシア語本文を書き写してもよい）。

[その他（オフィスアワー等）]

このギリシア語A・ギリシア語Bは、人文・社会科学系科目群であるが、外国語科目群と同様に語学学習への強い目的意識をもって臨むことが肝要である。予習・復習には大幅に時間を使うことになるが、それこそがギリシア語を学ぶことの醍醐味である。

ギリシア語Bまで受講し終え文法を一通り学んだ後は、文学部の西洋古典学専修や西洋哲学史専修の古代哲学史の講読・演習に参加すると、なお一層ギリシア語とギリシア文学の魅力を味わうことができるだろう。

[主要授業科目（学部・学科名）]